



TITLE:

国立天文台の天文博物館構想に向けてのアーカイブ活動

AUTHOR(S):

中桐, 正夫

CITATION:

中桐, 正夫. 国立天文台の天文博物館構想に向けてのアーカイブ活動. 京都大学の天文学100年と発展の礎 2011: 47-48

ISSUE DATE:

2011-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/153473>

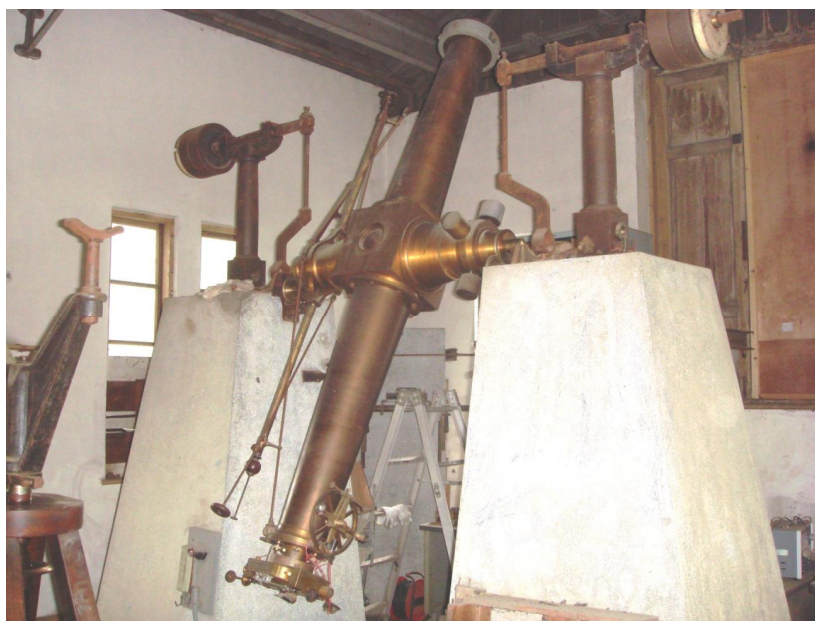
RIGHT:

国立天文台の天文博物館構想に向けてのアーカイブ活動

中桐正夫

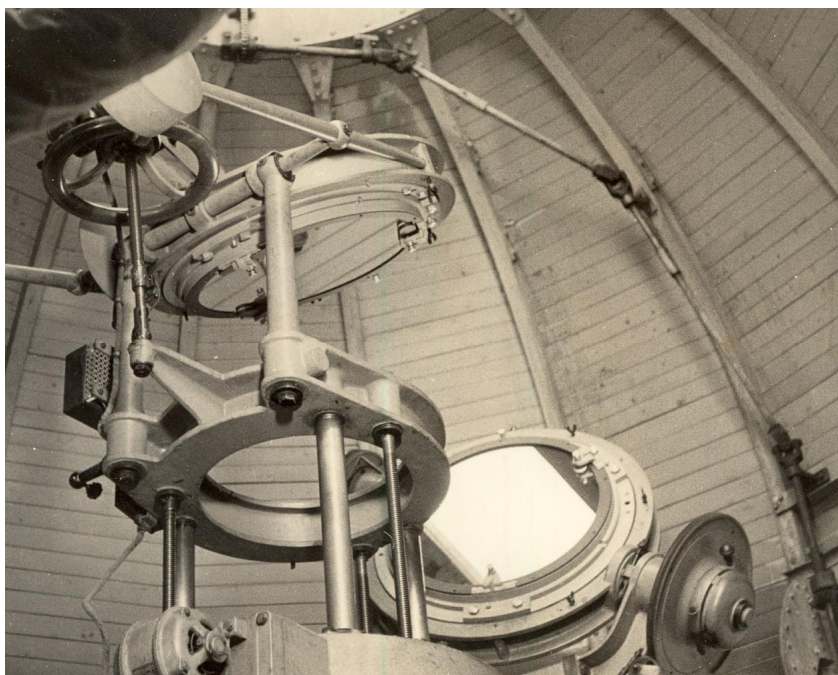
国立天文台は 2000 年 4 月にキャンパスの一部を常時公開し、年末年始の休みを除いて見学者を受け入れるようになっています。その時に公開されたのは、1) 第 1 赤道儀室及び 20cm ツアイス屈折望遠鏡、2) 太陽系ウォーキングという 80m 程の東西の道路を太陽系の模型に見立てて 140 億分の 1 の比例尺で太陽系の惑星を土星まで並べました。140 億分の 1 では太陽も惑星も小さすぎるのでこれ等は 14 億分の 1 で 140 億分の 1 の位置に置かれました。天王星より外の惑星等については土星のすぐ外にその他大勢として配置されています。3) 大赤道儀室（国立天文台歴史館）及び 65cm ツアイス製屈折望遠鏡、4) 太陽塔望遠鏡室外観、5) 国立天文台展示室（すばるの模型、45m 宇宙電波望遠鏡模型、ALMA 計画模型、VERA パネル、ひのでパネル、JASMINE パネル、TAMA300 パネルなど）でした。

2007 年 4 月から、常時公開エリアの拡張が図られ、旧図書館外観、レプソルド子午儀室外観、ゴーチ電子午環室、自動光電子午環室といった広大な領域が加えられました。その作業の中で、レプソルド子午儀室の中にレプソルド子午儀（大子午儀（1880 年ドイツ製）



が現存することが発見され、復元、展示を進めたことをきっかけに、国立天文台のあちこちに保管されていた子午儀類をレプソルド子午儀室に集約して 2008 年には子午儀資料館を開設し、また自動光電子午環室に国立天文台に残された観測装置類（自動光電子午環、人工衛星追跡 AFU カメラ、ブランの子午儀など）、測定装置類（マイクロフォトメーター、座標測定機、PDS など）、その他天文関連機器を集め 2009 年には天文機器資料館を開設しました。同時に国立天文台に残された天体写真乾板の整理も進めることになっています。

2010 年に至って、1968 年に岡山天体物理観測所に 65cm 太陽クーデ望遠鏡が完成するにあたって、1966～1967 年頃に観測を終えた太陽塔望遠鏡の整備を進めています。



こういった活動が認められ、ついに国立天文台天文博物館構想を検討するまでになって来ました。そこで京都大学天文台のアーカイブ活動の報告会があるというので、部外者でしたが、参考になることも多かろうと出席させていただきました。いろいろお話を伺い大変参考になりました。ありがとうございました。

国立天文台天文情報センター・アーカイブ室の報告については、アーカイブ室新聞

アーカイブ室新聞 : http://prc.nao.ac.jp/prc_arc/
に掲載されていますので、ご覧いただければ幸いです。